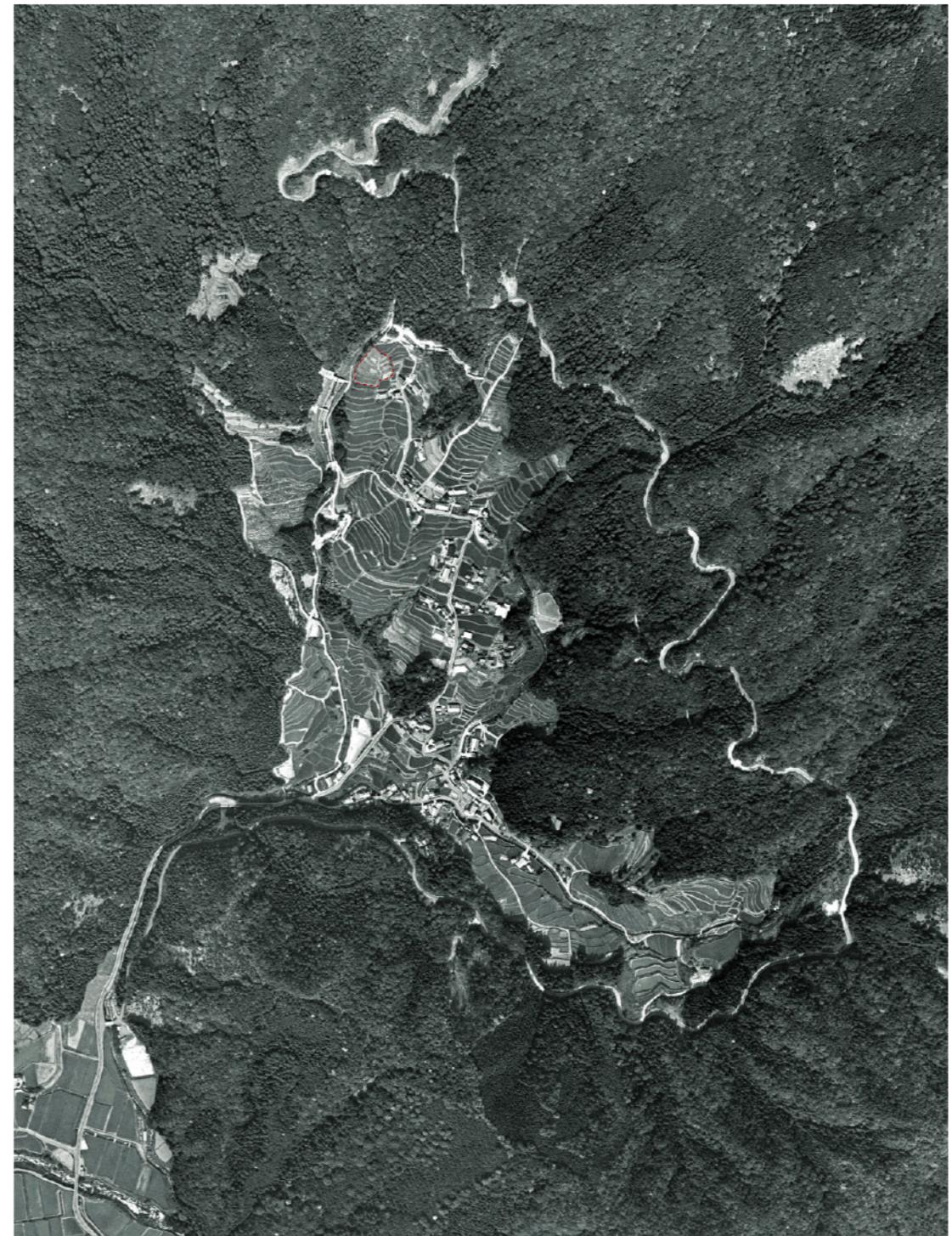


畠地区植生調査レポート



調査日：'08年9月3日～4日
アネックス5×緑事業部（滝本・宮田）
プランタゴ（田瀬・小田部）
翠嶺舍植物調査事務所（荒井浩二）
協力：宮脇健康／松本勝利



≈1/10,000



■全体の概要

- ・畦は、繰り返し草刈りされているので光が届きやすく、多年草のチガヤをベースに、色々な種類の草が混ざっている。
- ・畠は、繰り返し耕されるので、1年草であるメヒシバやツユクサ、エノコログサが多い。
- ・土手は、ススキやクサコアカソをベースに、ウツギなどの木本類が混ざっている。

以下は、それぞれの詳細。

No.1 : ハーブ畠。周りにもハーブが逃げている。他はチガヤが多い。

- ・畦 チガヤ、センニンソウ、トダシバ等
- ・畠 オランダハッカ（ミント）、その間にコブナグサ
- ・土手 センニンソウ、クサコアカソ

No.2 : 休憩小屋周辺／人が頻繁に入るので、草刈りの回数が多く、踏圧もある。シバが多い。

- ・畦 トダシバ
- ・畠 シバ
- ・土手 クサコアカソ、ヘビノネゴザ、ゼンマイ

No.3 : 作物の間にヨモギとチガヤが多い。畦にクサボケの群落あり。

- ・畦-1 チガヤ、トダシバ
- ・畦-2 クサボケ
- ・畦-3 ヨモギ
- ・畠 メヒシバ、ツユクサ、畝の間の低いところにコブナグサ
- ・土手-1 クサコアカソ、オニドコロ
- ・土手-2 クサコアカソ、ウツギ

No.4 : メヒシバが多く、少し湿ったところに生えるコブナグサも多い。畠にヤブカンゾウの群落あり。

- ・畦-1 チガヤ、ヤブカンゾウ
- ・畦-2 チガヤ
- ・畠-1 （ミョウガ畠）チガヤ
- ・畠-2 （サトイモ畠）メヒシバ
- ・土手 ウツギ、センニンソウ、ナキリスゲ少々

No.5 : 上に水田と水路があるので湿り気味。少し湿ったところに多い草

- ・畦 チガヤ、ゲンノショウコ少々
- ・畠 イヌタデ、ツユクサ、ヒメクグ、ハシカグサ、チガヤ少々
- ・土手-1 ススキ
- ・土手-2 フキ
- ・土手-3 ヨモギ、ヨメナ、チガヤ

No.6 : 畠、畦、共にゲンノショウコやキンエノコロが多い。畠にゲンノショウコ（赤・白）の群落がある。

- ・畦 ススキ、エノコログサをベースにゲンノショウコ、ヨモギなどいろいろな草が混ざる
- ・畠-1 フジ
- ・畠-2 コブナグサ、ササガヤ
- ・畠-3 ゲンノショウコ、キンエノコロ
- ・畠-4 ゲンノショウコ（多い）、ツユクサ
- ・畠-5 メヒシバ、キンエノコロ
- ・畠-6 フキ畠／ハシカグサ、キンエノコロ、ヨモギ
- ・土手 ススキ、クサコアカソ
(刈った草の放置が多く、草の種類にまとまりがない)

No.7 : 畠はツユクサやメヒシバ、キンエノコロが多い。土手下の畦にはヨモギの群落がある。

- ・畦-1 チガヤ、ヨモギ
- ・畦-2 チガヤ
- ・畦-3 ヨモギ
- ・畠-1 元カボチャ畠／ツユクサ、メヒシバ
- ・畠-2 ツユクサ、キンエノコロ、アキノエノコログサ、コゴメガヤツリ、メヒシバ
- ・土手-1 フジ、ウツギ
- ・土手-2 クサコアカソ、ウツギ、ススキ

No.8 : 畠の中は少し湿ったところに生えるコブナグサが多い。

ウメの木の下にはシャガやコケ類など日陰の植生がある。土手にはウツギやヤブツバキ等の木本がポツポツ混じる。

- ・畦-1 チガヤ
- ・畦-2 チガヤ+ヨモギなど色々な草が混じる
- ・畦-3 チガヤ
- ・畦-4 チガヤ+ヘクソカズラ
(ウメの影) ミヅシダ、アシボソ、シャガ
- ・畦-5 (土手下) ヨモギ、ヨメナ
- ・畦-6 (土手下) ドクダミ、フキ
- ・畦-7 (土手下) ヨモギ
- ・畠-1 ヨメナ、ヨモギ
- ・畠-2 コブナグサ
- ・土手 ススキ、クサコアカソ、が多い。ウツギ、ヤブツバキ、チャ、がポツポツ混じる。

No.9 : 畠はススキが多い。

- ・畦-1 シバ
- ・畦-2 ススキ、ノブドウ
- ・畦-3 ススキ
- ・畦-4 チガヤ
- ・畦-5 (法肩) トダシバ
- ・畦-6 ススキ、チガヤ
- ・畦-7 チガヤ
- ・畦-8 クズ、ススキ、チガヤ
- ・畦-9 ヨモギ
- ・畠-1 ススキ、チガヤ、ヨモギ
- ・畠-2 (サトイモ畠) キンエノコロ、ケイヌタデ、スギナ、コブナグサ
- ・土手-1 クサコアカソ、ススキ
- ・土手-2 ススキ、イタドリ

No.10 : 畠はススキが多い。

畠の中はゲンノショウコとヨモギが多い。

- ・畦-1 チガヤ、チカラシバ
- ・畦-2 チガヤ
- ・畦-3 チガヤ、ススキ、チドメグサ
- ・畦-4 チドメグサ（多）、チガヤ少々
- ・畦-5 チガヤ、クズ
- ・畠-1 チガヤ、クズ
- ・畠-2 ヨモギ、スギナ
- ・畠-3 チガヤ、ヨモギ
- ・畠-4 チガヤ
- ・畠-5 チガヤ、ゲンノショウコ（多）
- ・畠-6 ゲンノショウコ、ヨモギ
- ・畠-7 チカラシバ
- ・畠-8 ゲンノショウコ
- ・土手-1 ススキ、クサコアカソ、ウツギ
- ・土手-2 ススキ、トダシバ、ヘビノネゴザ、ウツボグサ

☆ : ゲンノショウコ（赤・白）多い、オオバコ少々

植物リスト

1	アオカモジグサ	41	クサコアカソ	81	トダシバ	○121	ヨメナ
2	アオツヅラフジ	○42	クサボケ	82	ナガバモミジイチゴ	122	ヨモギ
3	アカショウマ	43	クズ	○83	ナワシロイチゴ	123	リョウブ
4	アカネ	44	クルマバナ	84	ニガナ	○124	リンドウ
5	アカバナ	45	クロバナヒキオコシ	85	ヌスギトハギ		
6	アキカラマツ	46	クワクサ	86	ネコハギ		
7	アキノエノコログサ	47	ゲジゲジシダ	87	ネジキ		
8	アキノノゲシ	○48	ゲンノショウコ	88	ネナシカズラ		
9	アキメヒシバ	49	コウゾリナ	89	ネムノキ		
10	アシボソ	50	コゴメガヤツリ	○90	ノアザミ		
11	アプラススキ	51	コスマス	91	ノイバラ		
12	アメリカタカサブロウ	52	コナラ	92	ノギラン		
13	イガホオズキ	53	コブナグサ	93	ノブドウ		
14	イタドリ	54	コマツナギ	94	ハシカグサ		
15	イヌガラシ	○55	ゴヨウアケビ	95	ハシゴシダ		
16	イヌタデ	56	ササガヤ	96	ヒナタイノコヅチ		
17	イヌツゲ	57	サルトリイバラ	97	ヒメクグ		
18	ウシノシッペイ	58	シオデ	98	ヒメジョオン		
19	ウシハコベ	59	シシウド	99	ヒメカシヨモギ		
20	ウマノアシガタ	60	シシガラ	○100	ヒヨドリバナ		
21	エノキグサ	61	シバ	101	フキ		
22	エビヅル	62	シャガ	102	フジ		
23	オオアレチノギク	63	スイカズラ	103	ブタクサ		
24	オオバコ	64	スイバ	104	ヘクソカズラ		
○25	オトギリソウ	65	スギナ	105	ヘビノネゴザ		
26	オニグルミ	66	スゲ.sp	106	ボタンヅル		
27	オニドコロ	67	スズメノヒエ	107	マツカゼソウ		
○28	オヘビイチゴ	68	スズメノヤリ	108	ミヅシダ		
29	オランダハッカ	69	セイバンモロコシ	109	ミヅソバ		
○30	カキドオシ	70	センニンソウ	110	ミソハギ		
31	カゼクサ	71	ゼンマイ	○111	ミツバツチグリ		
32	カタバミ	72	チガヤ	112	ムラサキシキブ		
33	カツラ	73	チカラシバ	113	メヒシバ		
34	カニクサ	74	チャ	114	ヤダケ		
35	カラムシ	75	ツタウルシ	115	ヤハズソウ		
○36	カンゾウ.sp	○76	ツボスミレ	116	ヤブツバキ		
37	キクムグラ	77	ツメクサ	117	ヤブマメ		
38	キヅタ	78	ツルボ	118	ヤマアジサイ		
39	キンエノコロ	79	トキンソウ	119	ヤマグワ		
40	キンミズヒキ	80	ドクダミ	120	ヨツバムグラ		

※.SP：詳細な種が特定できなかったもの

○：花や実が楽しめるもの

○現状について

今回の調査では120種以上の植物種が確認されました。

中にはリンドウなど、今は少くなってしまったものも見られました。また、ゲンノショウコは赤花と白花が混在し、独特の景色をつくっていました。（関東は赤花、関西は白花がほとんど）

一方では、アゼで一般に見られるヘビイチゴや、林縁部で見られるアキノキリンソウなどの草花が見つかなかったり、アゼターフを構成するのにふさわしい、花や実をつける植物の絶対量が少ないようです。

○現状からの提案

1) 草刈りを継続し、刈った後の刈草は集積して処理する。

刈草を放置すると、その下になった草に光があたらず、衰退してしまいます。

刈草を取り除けば地面までよく光が届き、植物の種類も徐々に増えていくでしょう。

2) アゼを広げる

アゼを広げ、採取できる面積を増やすはどうでしょう？

3) 外来種の拡大を防ぐ

No.1のハーブ畑から、ミント（オランダハッカ）が周囲に広がっています。

生育が旺盛な種類ですので、畑の中だけで育てるようにした方が良いでしょう。

4) 花や実のなる植物を増やす

・魅力的なアゼターフをつくるために、花や実のなる植物を増やすはどうでしょう？

・例えば、No.3のクサボケ群落、No.4のヤブカンゾウ群落などから株分けしても良いでしょう。

・種を播く場合には、育苗トレイなどに種をまいて、苗を育ててから移植すると良いでしょう。

・こうして植物を増やす場合には、「元あったところと似た環境を選んで植える」ことが原則です。

5) 環境に応じたアゼターフづくりを目指す

・日当りのいい場所。日陰の場所、湿った場所、乾燥している場所、それぞれ植生が異なります。

環境を上手に活かしたアゼターフづくりをしましょう。

・例えば、No.8のウメの樹の下や、No.6～7の杉林のそばは、日陰用のアゼターフのベースとなる植生があります。

○今後について

1) 種の採取

これから色々な植物の種がつくので、草刈りはススキなどの大きな植物くらいにして、種が成るのを待ちましょう。種を播くタイミングなどは植物によって異なるので、本などで調べる必要があります。（上述のとおり、種は育苗トレイなどに播く）

参考図書：「図解 種から山野草を育てる (プロが教える園芸秘伝)」石原 篤幸 (著) ¥ 1,575 (税込)

「タネから楽しむ山野草」東京山草会 (著) ¥ 2,250 (税込)

「最新版 山野草大百科」久志 博信 (著), 内藤 登喜夫 (著) ¥ 3,000 (税込)

2) アゼの拡張

来春、植物が生長を始める前に、No.7とNo.8のアゼを2.5倍くらいに拡張しましょう。

No.7, No.8のアゼはチガヤを主体に様々な種類の草が混じっており、日向用アゼターフのベースになる植生です。

また、No.7の杉林側、No.8のウメの木の周りには、日陰用のターフのベースとなる植生があります。これらの植生をベースに、今後多様な植物を移植していきましょう。

3) 草刈りのタイミングを図る

注意深く観察を続ければ、花の咲く植物を見分けて草刈りのタイミングを図ったり、

花が咲いている植物は、実が成るまで刈らずに残したり、といったことができるようになります。

4) 春（4月中旬～下旬）に再度植生調査をしましょう。

今回は同定できなかったり、見つけられなかった植物が発見できる可能性があります。